

岡崎市制100周年記念事業

岡崎まちものがたり：六ツ美南部 J-02

## 堀内善次郎の碑

堀内善次郎（1843～1892）の碑は六ツ美南部小学校の南門の近くに建てられている。この碑は碑文を早川龍介が書き、当時の六ツ美村会議員の連名で、明治26年5月に建立された。堀内善次郎は六ツ美村誌に記載があり、そこには「六ツ美第三尋常高等小学校の庭上堀内先生の碑ありて、其の事蹟を刻せり」とある。



六ツ美南部小学校  
堀内善次郎の碑  
明治26年5月建立  
20150802



写真は堀内善次郎（本家）の分家である堀内定則さん

・堀内善次郎碑（表側）

**堀内雙楠碑銘**

君諱善治號雙楠考曰次郎作志賀氏為幡豆郡松坂村農利助三男天保九年正月碧海郡高畑村農堀内善兵衛養為子配其長女堀内氏世々勤地頭用達賜士格同十四年十二月君生誕其家幼而俊才好學始師中島村龍泉寺僧普翁安政四年從本多氏臣寺井喜確而學明治五年一月拜命為碧海郡高畑村戸長同七年八月離職入于養成校修學日進同十二年二月得授業術卒業証書同十六年二月卒高等師範學科業爾來奉職中島小川三木諸校兼撰於校長大盡力於教育四隣童幼化其薰陶者多矣君為人温厚篤實加之刻苦精勵出於天性及其學成業遂專從事於教育又傍理家政明治十三年以投資補校費賞賜木盃同十六年以教育勤勞之功受恩賞足以知其忠誠之志矣其教人以懇篤誠實為宗是以闔村稱譽聲望超絶於教員中晚年盡力於殖産頗有效焉明治二十五年七月十三日病没享年五十有一葬於淨光寺先塋之次君生四男五女現在世者二男二女其三男勝吉繼家乃銘之曰

夙修學業 循循誨人 資性温篤 童幼化淳  
 能饒家産 譽聞四隣 維德不孤 永享豐禮  
 五位男爵藤原正秀篆額 早川龍介撰并書  
 明治廿六年五月 岡崎 嶺田久七鐫

盡：つ（きる）、ことごと（く）。於：お（いて）、お（ける）。勵：レイ、はげ（ます）、はげ（む）  
 闔：コウ、と（じる）、とびら、もん。焉：エン、いづく（んぞ）、ここ（に）、これ。誨：カイ、おし（え）  
 饒：ジョウ、ゆた（か）、ゆとり。井：ヘイ、あわ（せる）、なら（ぶ）。篆：テン、（印章）  
 鐫：セン、うが（つ）、ほ（る）

・堀内善次郎碑（表側）碑文概要（口語訳）

堀内善次郎は善治雙楠（そうなん）と呼ばれていた。父は次郎作といい志賀氏であった。幡豆郡松坂村（現在の額田郡幸田町）の農家の利助の三男で、1838（天保9）年正月に碧海郡高畑村の農家である堀内善兵衛の養子となり、その長女と結婚しました。堀内氏は代々地頭用達（知行地を与えられ租税徴収）で士格を給されていた。

善次郎は1843（天保14）年12月にその家に生まれ、幼い頃より才知がすぐれ学問を好んだ。始め中嶋村龍泉寺の僧である普翁に師事して学んだ。1858（安政4）年には、本多氏の家臣である寺井喜雄に従って学んだ。

1872（明治5）年1月、碧海郡高畑村戸長を拝命した。1874（明治7）年8月には職を辞して養成校に入学し、日々修学した。1879（明治12）年2月授業術の卒業証書を受け、1883（明治16）年2月には高等師範学科の授業を卒業した。その後、中嶋・小川・三ツ木の学校に奉職し、兼ねて校長に選ばれ、大いに教育に力を尽くした。周囲の年少者の多くは、徳を持って感化され優れた人間となった。

善次郎は、温厚で人情に厚く誠実で、加えて苦しいことにも努めて励み、天性を發揮し、学業に努めた。そして、主として教育に従事した。また、その傍ら家庭生活を整えた。1880（明治13）年には投資をして校費を補い、その賞として木盃を賜った。1883（明治16）年、教育勤勞として恩賞を受けた。その忠誠の志を十分に知ることができる。人を教えることは、親切で手厚く誠実を持って行うことを主とした。すべての村民は誉れ称えた。その名声と人望は教師として、他より抜群に優れていた。晩年、産業を盛んにすることに尽力し、たいへんな成果をあげた。

1892（明治25）年7月13日、享年51歳で病死した。善次郎には四男五女が生まれ、三男の勝吉が家を継いだ。

・堀内善次郎碑（裏側）

碑の裏面は発起人の名前が書かれている。

**碧海郡中嶋村  
発起村會議員**

早川龍介、大竹文左衛門  
鍋田恒雄、杉浦定吉  
鶴田勝藏、榊原勘助  
早川大助、市川文兵衛  
太田卯吉、高橋太十  
早川庄助、早川治三郎

「1892（明治25）に堀内善次郎さんが亡くなって、その後三男の勝吉さんが後を継いだ但妻子なく、新家（分家）の堀内定則さんの門長屋で亡くなり、残った兄弟（男一人、女二人）はそれぞれ大阪へ出たので堀内善次郎さんの家は断絶した。そして、外孫の浅野以與子さん（大阪在住）が唯一人残った。以前、浅野以與子さんが堀内定則さんを訪ねてこられ、当時、浄光寺住職の石川完之さんの案内で石碑を拝んで帰られたことがあった。」

碑は高さ150cm、幅120cmで、碑銘は正五位男爵、藤原正秀が書き、撰文は国会議員、早川龍介が書いている。早川龍介は第1回から第9回まで連続当選した国会議員であり、悠紀齋田当時の六ツ美村長であった。堀内善次郎が亡くなって1年も経ぬ間に、この記念碑が建てられたことは、堀内善次郎の偉大さを物語っている。

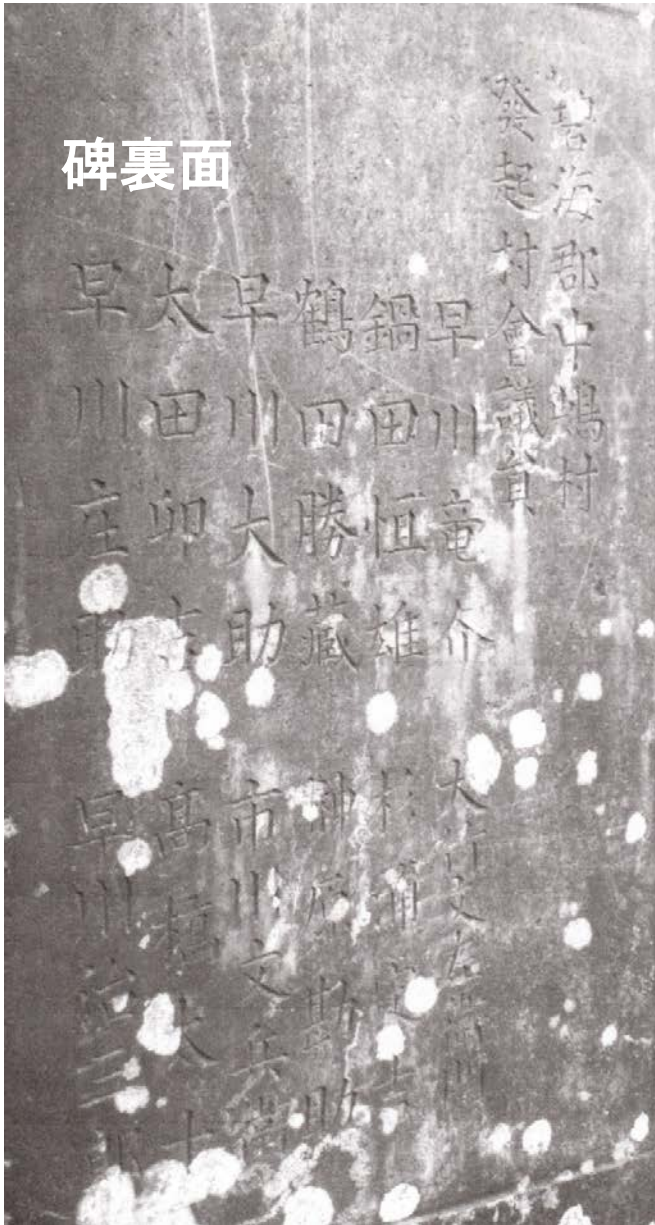
碑は初め何処に建てられたか現在でも不明であるが、現在の中島町薬師にある六ツ美輪業（浜島木材）のところに学校（中島学校）があって、碧海信用金庫の辺りに長く立っていたようである。



堀内善次郎

諱は善次郎雙楠と號せり。父を次郎作といひ幡豆郡松坂村農利助の三男なりしが天保九年正月碧海郡高畑村堀内善兵衛氏の養子となり其の長女と配す。堀内氏は世々地頭用達を勤め士格たり。天保十四年十二月の出生にして中嶋村龍泉寺僧普翁に師事して學ぶ。幼にして俊才學を好む。安政四年本多氏の臣寺井氏に従つて學ぶ。明治五年一月碧海郡高畑村戸長となる。同七年八月職を辭し養成校に入りて學を修む。同十二年二月授業術卒業証書をうけ同十六年二月高等師範學科の業を卒り中嶋・小川・三ツ木諸校に奉職し校長を兼ね大いに力を教育に盡す。四憐童幼其の薰化をうくるもの多し。君人となり温厚篤實之れに加ふるに刻苦精勵、學成り業遂ぐるに及び専ら子弟の教育に従事し傍ら家政を理す。明治十三年資を投じて校費を補ひ木盃を賞賜せらる。同十六年教育勤勞の功を以て恩賞をうく。以て其の忠誠の志を知るに足れり。其の人を教ふるや懇篤誠實を旨とし闇村其の徳に服し聲望いよいよ高し。晩年力を殖産に盡し頗る功あり。明治二十五年七月十三日病を以て歿す。享年五十有一。淨光寺先坐の次に葬る。君四男五女あり。三男勝吉家をつぐ。六ッ美第三尋常高等小學校の庭上堀内先生の碑ありて其の事蹟を刻せり。

六ッ美村誌



碑裏面



本項は以下の資料から引用した。

[六ツ美村誌]

編者 六ツ美村是調査会  
発行 六ツ美村是調査会  
発行日 1926（大正 15）年 12 月 1 日  
発行所 日新堂書店  
印刷所 活版印刷所

[六ツ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 高須 亮平  
発行日 2012（平成 24）年 3 月 31 日 初版発行  
印刷所 ブラザー印刷株式会社

六ツ美村誌には次のように記載されている。

君諱善治號雙楠考曰次郎作志賀氏爲幡豆郡松坂村農利助三男天保九年正月碧海郡高畑村堀内善兵衛養爲子配其長女堀内氏世々勤地頭用達給士格同十四年十二月君生于其家幼而俊才好學始師中嶋村龍泉寺僧普翁安政四年從本多氏臣寺井喜確而學明治五年一月拜命爲碧海郡高畑村戸長同七年八月辭職入于養成校修學日進同十二年二月得授業術卒業證書同十六年二月卒高等師範學科業爾來奉職中嶋小川三木諸校兼撰於校長大盡力於教育四隣童幼化其薰陶者多矣君爲人溫厚篤實加之刻苦精勵出於天性及學成業遂專從事於教育又傍理家政明治十三年以投資補校費賞賜木盃同十六年以教育勤勞之功受恩賞足以知其忠誠之志矣其教人以懇篤誠實爲宗是以闔村稱譽聲望超然於教員中晚年盡力於殖產頗有功焉明治二十五年七月十三日病歿享年五十有一葬於淨光寺先塋之次君生四男五女現在世者二男二女其三男勝吉繼家銘曰

夙修學業 循々教人 資性溫厚 童幼化淳  
能饒家産 譽聞四隣 維德不孤 永享豐禪

正五位男爵 藤原正秀 篆額  
早川龍介 撰並書